

塩田町民生委員児童委員協議会だより

つむぐ

創刊号

発行 平成31年2月1日
 発行元 塩田町民生委員
 児童委員協議会
 責任者 蒲原知愛子



ふれあいと信頼を
 塩田町民生委員児童委員協議会

会長 蒲原知愛子

私たちは、嬉野市塩田町民生委員児童委員協議会のメンバーです。民生委員児童委員28名と主任児童委員2名、総員30名で活動を行っています。

生活全般の「つむぐ」相談を

私たちは、それぞれに2〜4地区を担当して活動を行っています。地区全体を見回りながら、高齢の方や障がいのある方、乳幼児・学童など生活全般のお困り事や心配事などの相談をお受けしています。とは言いません、なかなか若い世

代の方々に名前や顔を覚えて頂けていない事は残念なことです。

たよりで紡ぐ

そこでこの度、「塩田町民生委員児童委員だより「つむぐ」」を発行する運びとなりました。「つむぐ」とは、地域の皆様との「ふれあいと信頼関係」を網の目のように紡いで行きたい、という気持ちと、その行動への「決意」を現わしています。どうぞ一読頂き、ご意見等もお寄せ頂きますようお願い致します。



塩田町民生委員児童委員協議会だより

「つむぐ」——創刊によせて

嬉野市長 村上 大祐

「塩田町民児協だより「つむぐ」」の創刊、誠におめでとうございます。民生委員・児童委員の皆様におかれましては日ごろから地域福祉の充実、未来ある子どもたちのために献身的にご活動いただき、心より感謝と敬意を申し上げます。さて、地域福祉や児童福祉を取り巻く課題は年々複雑化、多様化の一途をたどっております。認知症患

民生委員児童委員は

○皆さまの立場にたつて、まちの福祉を担うボランティアです。

○私たちは、民生委員法により厚生労働大臣からの委嘱を受けた無報酬のボランティア団体です。

○身近な相談相手、見守り役として活動しています。

○私たちは、法による守秘義務が課せられています。昨年は今までに経験した

者や独居高齢者の増加、子どもの貧困や教育格差などかつてない様相を呈しています。一人暮らしの高齢者世帯の増加や核家族化に加え、これまでの助け合い・支えあいの慣習がほころびつつあるところもあり、隣近所をはじめ人間関係が希薄な「無縁社会」とも言われています。このように、社会の「死角」が確実に広がりがつつある中、地域社会

ことのない猛暑や大きな自然災害が続きました。これは、地球温暖化による地球の異変だと伺っています。何時どのような災害が発生するか判らない現代に於いては、「地域全体のふれあいと助け合い」が必要となってきました。

皆様方とともに

私たち民生委員児童委員もその事を十分に認識しながら活動を続けて参ります

とのつなぎ役である民生委員・児童委員の役割はますます重みを増しております。私の亡き祖父も民生委員を務めておりましたが、とにかく人が好きで、朝から晩まで地域の人のもとに出向いて話し込んでいた姿を見た子どもの頃の記憶を思い出しました。

「つむぐ」を通して、皆様の活動が多くの方の市民にも知っていただくとともに、互いにつながるきっかけとなり、共に地域の未来を考えるきっかけとなることを願ってやみません。創刊にあたってご尽力いただいたすべての皆さまに深く感謝申し上げます。

が、私たちが気付かない事や足りない部分につきましては、どうぞ忌憚のないご意見・ご助言をお願い致します。

皆様方と共に「安心して豊かな暮らしが出来る」地域社会づくりに努めて参りましょう。

どうぞ、いつでもお気軽にお声を掛けて頂きますようお願い致します。



【主任児童委員】

くまがい のりむね
熊谷 乗宗
①塩田町全地区
②塩田
③66-2076

なかしま えみこ
中島 恵美子
①塩田町全地区
②牛坂
③66-4416

にしむら きみこ
西村 貴美子
①中久間
②中久間
③66-2033

えがしら まさみ
江頭 政美
①北志田
②北志田
③66-3909

(凡例)
①担当地区
②住所
③TEL

私たち塩田民生委員児童委員協議会は、30名の会員で活動を行っています。
私たちの活動の基本は、地域の生活状況を把握して必要な場合は関係機関へ連絡をする事が第一の任務です。
地域を見回り家庭を訪問し、誠意を持ってあらゆる相談に応じ、地域の皆様が「安心して豊かな暮らしが出来るように」すべての人々と協力して健全な地域社会づくりに努めます。
どうぞ、お気軽に声をかけて頂きますようお願い致します。

**私たちは、民生委員児童委員です。
お気軽にお声をかけて下さい。**

しむむら さよこ
下村 サヨ子
①堤ノ上、中通西
②中通
③66-5398

ながた こういちろう
永田 幸一郎
①光武
②光武
③66-3219

みやもと もとこ
宮本 元子
①西山
②西山
③66-3633

やまぐち ちえこ
山口 チエ子
①南志田
②南志田
③66-3769

たなか のりこ
田中 則子
①北下久間
②北下久間
③66-3751

はらだ とみこ
原田 都巳子
①冬野、牛間田
②冬野
③66-5559

ついで ようこ
筒井 洋子
①塩吹、鍋野
②鍋野
③66-5328

たなか けんいちろう
田中 謙一郎
①万才、角ノ谷
②万才
③66-4421

まつざわ のぶひろ
松澤 信廣
①のぞえ
②のぞえ
③66-5239

なかの ひろこ
中野 博子
①大草野辺田、五代、長谷
②五代
③66-2654

いtoyama のりこ
糸山 典子
①中通東、牛坂
②牛坂
③66-2929

いとう きみこ
伊東 公子
①塩田、原町
②原町
③66-2559

もろい あいこ
諸井 愛子
①南下久間
②南下久間
③66-3888

みづやま せいご
水山 清吾
①町分
②町分
③66-2533

もろおか ひろこ
諸岡 博子
①南上、南下
②南下
③66-4343

こが あきのり
古賀 晃憲
①福富、大牟田、真崎、袋
②福富
③66-2833

いけだ やすこ
池田 康子
①谷、熊野
②谷
③66-3601

ゆした ヒロ子
湯下 ヒロ子
①布手、下野辺田、本谷
②下野辺田
③66-4312

みやざき まち子
宮崎 まち子
①五町田第1、2
②五町田第2
③66-3392

みやざき としひろ
宮崎 俊弘
①五町田第3、4、5
②五町田第4
③66-5599

ふち まさゆき
淵 正幸
①宮ノ元、畦川内
②宮ノ元
③66-2310

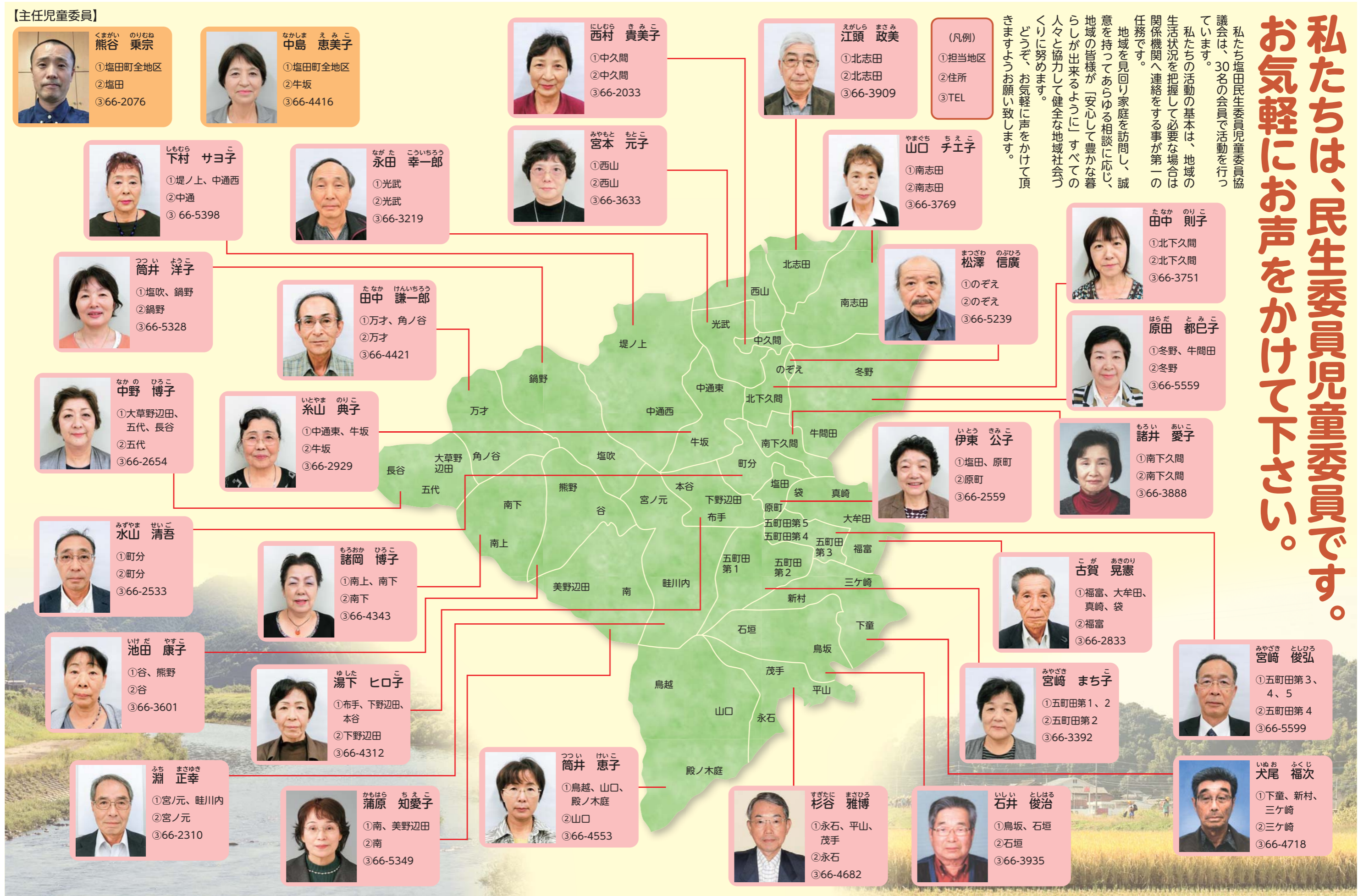
かもはら ちえこ
蒲原 知愛子
①南、美野辺田
②南
③66-5349

ついで けいこ
筒井 恵子
①鳥越、山口、殿ノ木庭
②山口
③66-4553

すぎたに まさひろ
杉谷 雅博
①永石、平山、茂手
②永石
③66-4682

いしい としはる
石井 俊治
①鳥坂、石垣
②石垣
③66-3935

いぬお ふくじ
犬尾 福次
①下童、新村、三ヶ崎
②三ヶ崎
③66-4718



平成30年度主な活動



町内保育園訪問(5月)



地区敬老会へ参加(9月)



済昭園シーツ交換(毎月)



「民生委員児童委員の日」
美化活動(5月)



済昭園入所者・児童との
交流(5月・9月)



放課後児童クラブとの
交流(8月)



塩田中学校生徒との
交流(7月)



～民生委員制度創設100周年～

大正6年に岡山県から始まった民生委員制度は、一昨年100周年を迎えました。

当時、岡山県の笠井信一知事は、宮中で開かれた地方長官会議において、大正天皇から「県下の貧民は如何に活せる乎(いかに暮らしているか)と下問を受けました。すぐに状況を調査すると、県民の一割に当たる約十万人が極貧状態にある事が判明。その事を「県民の生活状態は悲惨、実にいうに忍ぶざるものあり」と自らの責任の重大さを痛感し、ドイツの「救貧委員制度」等を参考に「救世顧問制度」の大綱を完成させました。

こうして大正6年5月12日に民生委員制度の源である救世顧問設置規程が公布されました。

私たち民生委員は、毎年5月12日を記念すべき日として、5月に毎年、「地域ボランティア活動」を行っています。



リレー随想(1)

その方の幸せを共に考えたい

塩田 原町担当 伊東 公子

ある日、他の地区の民生委員から、「他人(ひと)から聞いた話だけで、〇〇さんが困ってあるようだけど」と電話がありました。夕方、訪ねてみると、「家業のかたわら二人の介護をされていて疲れた」とのことでした。翌日、地域包括支援センターに事情を話しますと、既に状況把握されており、検討中でした。数日後に訪ねてみると、笑顔が見られホッと致しました。また、ひとり暮らしの女性の方が、入院されている折、他県在住の娘さんから「介護保険の手続きをしたい」との電話が入り、一緒に市役所内の支援センターで手続きを済ませることが出来ました。リハビリを続け、入院4ヶ月の後、数日前に退院となりました。今後、デイサービスの為通院予定ですが、しばらくは、娘さん達が交代で見守られるそうです。私ひとりでは何もお役に立てませんが、どのように支えていけば、その方が幸せに暮らせるのか、共に考えていければと思っています。ひとりで悩まないで、どうぞお声をかけて下さい。お願いします。

編集後記

毎月、塩田町の定例民児協では学習や伝達事項など多くの情報もたらされる。それらのなかには民生児童委員だけではなく、市民に届けたい情報がある。しかし、伝える媒体がない。個人的に「民生委員だより」(下谷所)を2号まで発行したが、何せ地域が限られていることと個人の力に拠るところで大持続可能性(笑)に疑問があった。そこで、塩田町民児協として会報を発行してはどうかと提案した。

世の中、言い出しっぺが責任をとらされることままたまある。現役時代、「社内報」が面白くなく、読まれていないので文化欄で映画評など設けたらどうかと提案し、自分で書く羽目になった。

今回も広報部の責任者と相成った。創刊号なので、委員の紹介をメインにした。団塊世代が75歳以上になる「2025年問題」は直前。読んだためになり、互いにつながり、生きがいを育めるような会報にしたい。